

三好学著「天然記念物解説」(富山房出版 大正15年5月発行)

第6編 天然記念物に関する史蹟及び名勝

6. 松原

松原は全国に亘って甚だ多いが、名勝として著しいものは比較的少ない。松原の名勝としての価値はその地域の広いこと、太い松の多いこと、松の樹勢の立派なこと、砂の奇麗なこと、愛らしい小松が樹下に点々発生していること等であるが、これに加えるに海陸の風景が佳く松原の美を添えることが大切である。松原は海浜の砂地で、多少砂丘になっているところにあるものが少なくない。樹種は海に近い方は黒松で内地の方に進むに随って赤松になる。海に臨んだ部分は風力によって幹が傾いているが、内部では樹勢が正しくなり、枝が四方に伸びて、樹姿の釣合が良い。すべて松の密生しているところでは、幹が細く上に伸びて柱のようになり、何らの趣がない。かかる松原はその実松林で、名勝としての価値に乏しい。

(1) 三保の松原

静岡県安倍郡三保村不二見村

駿河湾に突出した長い松原で、古来風景地として知られたところである。実際北は富士に対し、南は駿河湾に臨み、景色の良いことは言うまでもなく、又かの羽衣の松の如き古い伝説があるに徴してもこの松原の著名なことは日本随一である。しかし一々の松の姿勢は立派でなく、松林のようになっているものが多い。畢竟(ひつきょう・つまり)三保の松原はその位置の好いこと、周囲の風景の佳いことで名高くなったのである。

(2) 虹の松原

佐賀県東松浦郡唐津町、鏡村、満島村

虹の松原は九州第一の立派な松原であるのみならず、松の樹勢の雅致(がち・風流な趣)あること、小松の多いこと、砂の奇麗なこと、松原の広いこと、ならびに海陸の景色の絶佳なることでは全国第一の松原として遜色がない。この松原へは唐津停車場から一里ばかりで、松原の内部を縦貫する街道には軽便鉄道が設けられ、また松原の背後には近頃汽車が通じた。

松原は東西約一里で、旧唐津城址から望むと、唐津湾頭に虹の如く横たわっている。松原の広い所は幅が56町(5,600m)にも達し、緩砂丘で、その背後の部分は田畑の地面より数間(一間は約1.8m)高い。

松の立派なのは二軒茶屋付近で、通路の南方には幹の大なるものが点々散在する。また幹は左まで(それほど)大きくないが、樹勢が見事で、あたかも植木屋の仕立てた庭樹の如く雅致のある松が一面に生えている。中には松の巨樹が砂上に伏して、処々から上方に枝を出しているものがある。

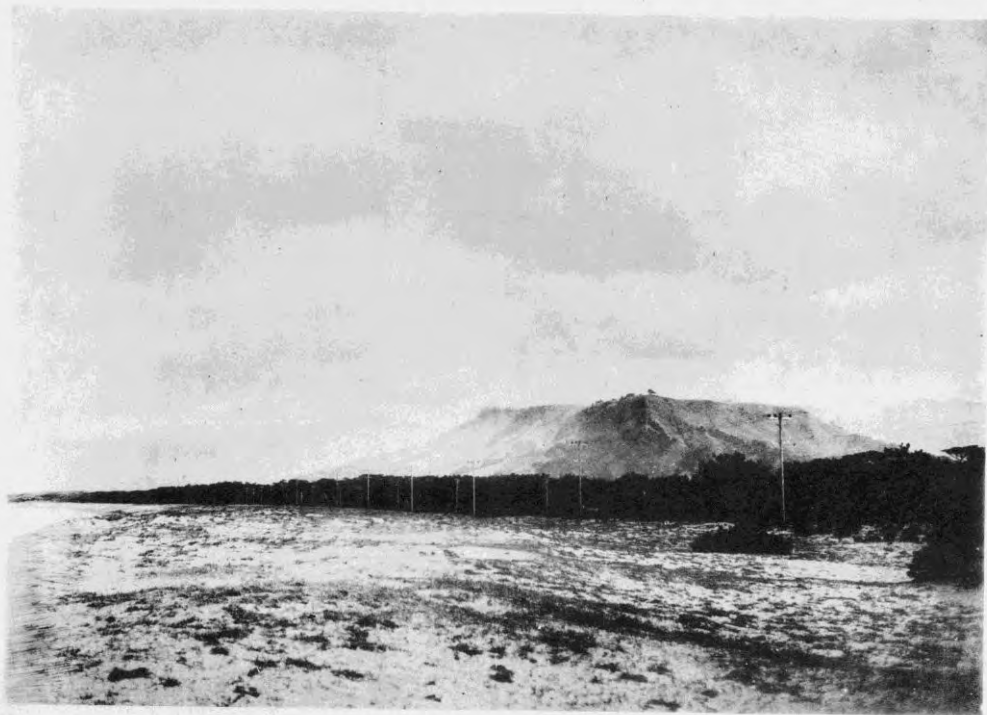
地面は至るところ純白の砂で被われ、大小無数の小松がその間に散在しているからさらに一段の趣がある。日本各地の松原でここ虹の松原ほど自然の庭園的風致の現れたところは他にみられない。

海岸に面した部分は風によって幹が一斉に傾いている。また太閤の睨みの松と称して、小さい黒松が根元から多数の枝を出し特異の発生を遂げたものが多数生えている。

松原の先端満島村の方に近くに随って、密生した松林になり、風致がない。



(真寫好三) 原松の虹 圖六十九第



(る據に真寫の影撮縣賀佐) 景遠の原松の虹 版圖八十四第
るあて(山振巾領)山鏡は山の頭平

(3) 慶野松原

兵庫県三原郡松帆村

慶野松原は淡路の西部瀬戸内海に面したところにあつて、延長一里に亘っている。北は五色が浜に連なり、南は雁来岬に対し、西ははるかに小豆島を望み、眺望が開豁(かいかつ・ひろびろと開けている)である。松原の北端に近いところは砂丘になって砂が移動するため松の幹が半ば砂中に埋もれたところがある。黒松の大樹で姿勢の良いものも点々見える。松原の幅は余り広くはないが、長く続いているため立派である。北部の一角に恵比寿神社がある。慶野松原が古来著名であつたことは「淡路常磐草」の一節(略)によつてもわかる。

(4) 気比の松原

福井県敦賀郡敦賀町

気比の松原は北陸著名な松原で、敦賀湾に臨み東西約十数町、南北約6町、地域は狭くないが、かなり大木もあり、また風景も佳いから松原として有数のものである。海に面した側は何れも黒松で、内部は赤松から成っている。松原の奥の内部は密生した松林で、林下の砂面は灌木・草類で被われ、松原の特色はない。

聞くとところによるとこの松原は福井県の公園として設計を施す由である。松原の美観は所謂白砂青松で、自然の趣の能く保たれた点にあるから、彼の遊園地の如く徒に多く道路を通じ、種々の草木を植え、また諸所に建物を設けるときは松原の風致を毀損(きそん)することになる。この松原も要するに松原としての天然の風致を維持することが大切である。

(5) 津田の松原

香川県大川郡津田町

高山市から東方6里にある。瀬戸内海に面して後に燧岳を負い風景が佳い。松原の長さ7, 8町、幅3町ばかり、地域は狭くないが、松は立派で、諸所に根上がりになったものがあり、愛らしい松原である。

津田の松原の東方数里に白鳥の松原がある。こゝも津田の松原に似て風景が佳い。

三好 学(みよし まなぶ、1862年1月4日(文久元年12月5日) - 1939年(昭和14年)5月11日)

明治・大正・昭和時代の植物学者、理学博士である。1895年(明治28年)5月に東京帝国大学教授に就任。理学博士になる。天然記念物保護事業の率先者であり、指導の第一人者であつた。終生、植物研究を続け、桜、菖蒲の研究、及び天然記念物保存事業に力を注いだ。地理学者の辻村太郎が、1937年に著した『景観地理学講話』の中で「景観」という言葉を生み出した人物としてとりあげている。

大正4(1915)年に著書『天然記念物』を、大正15(1926)年に『天然記念物解説』をあらわしている。

天然記念物を国が指定する根拠となる法律、史蹟名勝天然記念物保存法が議会上程され、公布にいたつたのが大正8(1919)年である。 おもに『ウィキペディア(Wikipedia)』より

名勝天然記念物:虹の松原 詳細解説 (文化庁ホームページより)

名勝指定年月日: 1926. 10. 27(大正 15. 10. 27)

特別名勝指定年月日: 1955. 03. 24(昭和 30. 03. 24)

玄海灘ノ波濤ニ浸サレ古来歌詠ニ入リテ著名ナル松浦瀉ノ弯曲自ラ弧状ヲ成セル海洋線ニ連リ青松白砂ノ一帯唐津浜崎両町竝鏡村ニ亘レルモノナリ、海岸線ノ形虹ニ似タルヲ以テ其ノ名ヲ負フ松林トシテハ数百年経タル老松ヲ始メ釋松ニ至ルマデ生意旺盛ニシテ枝柯根幹盤屈趣ヲ成セルモノ多ク砂丘トシテ亦屈折ナリ鮮明ナル弧線ヲ成スヲ以テ其ノ主要ナル特色トナシ斯ノ種砂丘松林ノ九州ニ於ケル代表的ノモノナリ 玄海灘ニ対する防風林として植栽されたものであり、松浦湾の海岸線に沿い、長さ10キロメートルを越え、幅1キロメートルに及ぶ、数百年を経た老松もなお少からず残っている。唐津城跡や鏡山から俯瞰すれば、鮮緑の弧線の現わす美観は虹の松原の名にそむかない。わが国の松原のうち特に価値の高いものである。